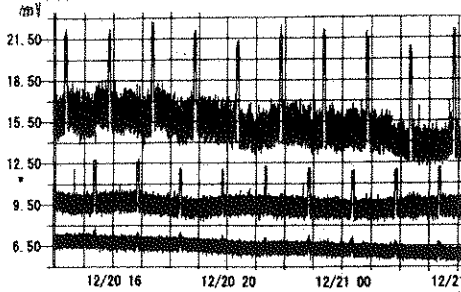


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆＝発生は早い場合でも 3/5±の可能性

No.3061 大型地震前兆は別地震ではなく No.1778前兆と同一見解



CH32, 29, 23に同期出現した PBF特異

長期継続特殊前兆No.1778は、長期に渡り特異状態が継続したハヶ岳のCH21が終息し、その後の静穏基線の中での小さな変化を、昨年夏以降の極大に対応させてみた場合、02月05日±2 時期の可能性が計算されました。しかし、以前から継続出現していたCH17, 20の特異前兆は継続出現しており、継続出現している前兆は昨年12月から顕著に出現したNo.3061前兆関連であり、あくまでもNo.1778前兆は終息した可能性と云う状況証拠的な見方では、02月05日±にNo.1778の対応地震発生の可能性を否定できませんでした。

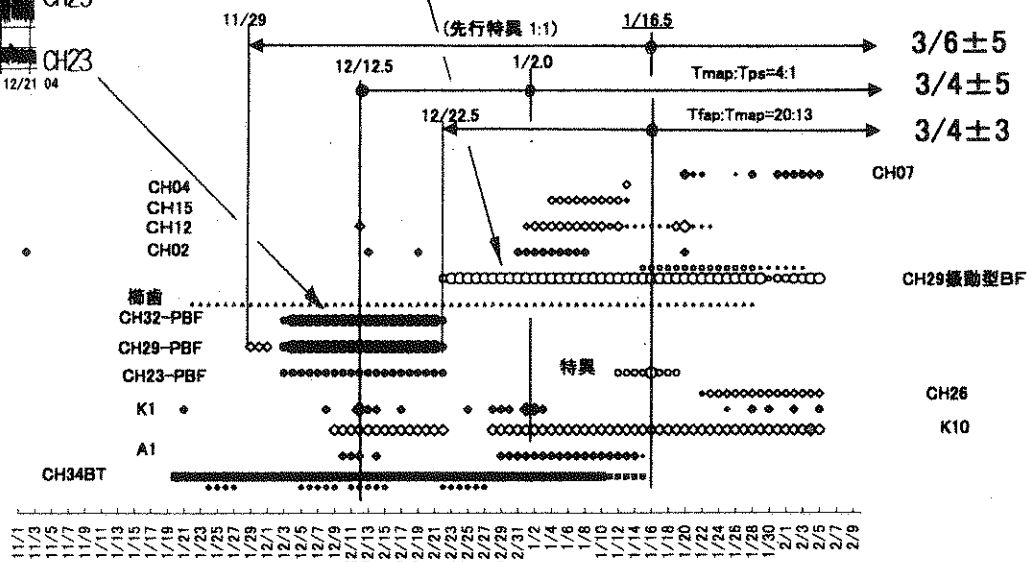
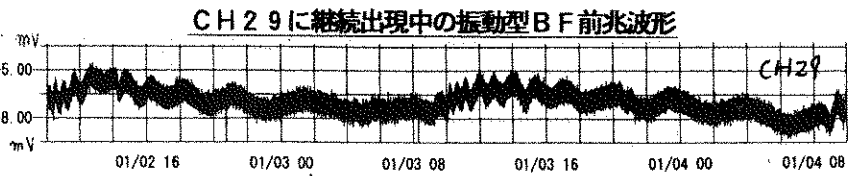
昨年12月より出現した顕著前兆No.3061は、左上波形のとおり、3観測装置に同期出現したPBF特異とCH29に現在も継続出現中の振動型BF前兆を主とした前兆です。No.1778前兆出現中に出現したNo.3061前兆を、あくまでも1778前兆とは別の大型地震の可能性はないかと検討を続けていました。

しかし、No.3061前兆としている昨年12月からの顕著前兆には、No.1778前兆との共通項が認められます。

- 1) 振動型BF前兆はNo.1778でも出現していた
- 2) CH34の基線幅増大BTは、当初1778で出現。途中から3061認識
- 3) CH34のBTの日々変化時刻 1778=午前09時半±1 or 16時±3
は右のとおり似ている 3061=午前10時±2 14時±3
- 4) 1778にも3061にも楯歯前兆＝震源が極めて浅い地震を示す

さらにNo.1778前兆として特異前兆が継続していたハヶ岳南麓のCH17, CH20の特異が未だ継続出現中で終息に至っていません。これらのことから、No.1778前兆は終息し、2/5±発生の可能性で、その他の継続前兆はNo.3061前兆として出現と同一見解は誤りで、昨年12月から出現のNo.3061前兆はNo.1778前兆の別形態前兆である可能性が濃厚となりました。

No.3061前兆の12/3～22迄継続出現したPBF特異は456時間継続したことから、通常のPBF前兆と同じに継続時間計が規模を示す可能性として計算した場合は、M8.9±0.5と云う値が出たこと、あまりに大きな値であるわりには前兆数が少ないことから、陸域ではなく海域地震の可能性があるので？と云う見



解から、影響局でNo.1778とは異なる領域を示す可能性の組み合わせから、伊豆半島西側～紀伊半島付近のまさに南海トラフ領域の可能性も否定できなかったため、非常に深刻な前兆の可能性とした次第でした。CH32＝勝浦100w 舞鶴100w 奈良500w
しかし、右の各影響 CH29＝新居浜100w 函館250w
局の中で下線の局の組 CH23＝伊豆100w
み合せでは、現在のNo.

1778推定領域を含んだ領域が示されます。影響局組み合わせを変えますと近畿も出ますが、No.1778と調和するのは上の下線局の組み合わせです。No.3061には次の様な疑問点があります。

- ①CH32, 29, 23の同期 PBF特異は、通常の PBF前兆波形では無い。
- ②CH29振動型BF前兆は PBF特異終息と同時に出現→過去例無い。PBF特異であって、通常の PBF前兆では無いことから、出現継続時間は規模を示していない可能性が考えられます。大変な心配をおかけ致しましたこと、心より深くお詫び申し上げます。

- ◆No.1778発生時期はNo.3061前兆から求める予定です。現状、早い場合でも 3/5±3 の可能性が示唆されます。本当の南海トラフ地震ではもっと前兆期間が短い可能性有です。
- ◆推定領域: 右図斜線域付近
- ◆推定規模: M7.8±0.5
- ◆推定時期: 早い場合 3/5±3
- ◇推定発生時刻: AM 9:30±1

